

「新しい協力伝道に共に仕える仲間たち」

日本バプテスト連盟理事 杉山 いずみ (徳島教会 牧師)

全国壮年会連合の皆様のお祈りとお働きを感謝いたします。2010年～2013年奨学金をいただき、西南学院大学神学部選科で学ぶことができました。神学生だった折には、多様な神学生と共に喧々諤々しながら、学び語り合い、祈り合う時を持つことができました。牧師になってからも神学生時代の仲間たちと様々な場で協働の機会を与えられ、励まされ、感謝しています。

近年、西南学院大学神学部の入学生、卒業生が減少しており、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校の卒業生が牧師になる機会が増えてきています。それでも、無牧師教会数が目に見えて増えてきました。(無牧師教会数42教会、2026年1月現在)

一方で、牧師給を支払うことが困難な教会も増えていきます。経常献金が500万円を切る教会が半数を超え、そのうちで経常献金が300万円を切る教会も半分以上ある状況です。地方教会ほど厳しい現状の教会が多く、牧師招聘も難しくなっています。厳しい地方教会に赴任していただき、牧師になっても生活の保障が十分でない中で、奨学金返済に苦慮する牧師たちもいます。牧師給を十分に支払えない教会に赴任したのが悪いのか、牧師給を十分に支払うことができないのに牧師を招聘する教会が悪いのか、個人の献身の問題、各個教会の問題としてよいのだろうか、考え続けています。神学生を祈り励まし、育てる働きをしておられる壮年連合のみなさまに、学びを終えた後の牧師たちの現状に目を向け、共に祈り、励ましていただきたいと思います。

中国・四国地方連合に赴任し、連盟の理事をさせていただき、牧師とは何か、教会とは何か、連盟とは何か、協力伝道とは何かと、考えさせられています。近年、目に見えて無牧師教会が増えていく中で、無牧師支援に行くことが増えてきました。「徳島教会の牧師である」という思いから、「中国・四国地方連合の牧師である」という思いへと変えられています。厳しい状況の中でも、新しい協力伝道の働きの中で、互いに励まされていきたいと思っています。

また、様々なルーツを持ちながら、連盟の教役者となられた同労者たちとも、出会い、祈りで繋がっていきたくと思っています。



2026年1月末現在 神学校献金・会費の納入状況と、納入促進・期限内納入のお願い

地方連合名	神学校献金					連合会費				
	2026/1実績		前年同月		対前年額	2026/1実績		前年同月		対前年額
	金額	教会	金額	教会		金額	教会数	金額	教会	
北海道	403,817	10	273,021	10	130,796	31,000	3	58,000	6	-27,000
東北	329,752	11	330,848	12	-1,096	56,000	5	68,000	6	-12,000
北関東	718,925	13	739,911	11	-20,986	140,000	9	92,000	5	48,000
東京	1,565,794	23	1,886,529	25	-320,735	204,000	12	320,000	16	-116,000
神奈川	651,840	10	871,345	12	-219,505	148,000	7	191,000	10	-43,000
西関東	259,190	5	348,260	7	-89,070	51,000	5	61,000	5	-10,000
中部	357,900	8	410,010	9	-52,110	20,000	1	101,000	8	-81,000
関西	485,196	16	601,499	18	-116,303	66,000	7	74,500	8	-8,500
中四国	711,870	17	760,400	18	-48,530	76,000	8	84,000	9	-8,000
北九州	366,100	13	424,910	14	-58,810	82,000	6	28,000	5	54,000
福岡	1,188,850	24	1,211,646	22	-22,796	137,000	9	216,000	13	-79,000
西九州	430,200	9	526,604	9	-96,404	40,000	5	52,000	4	-12,000
南九州	413,900	16	441,000	14	-27,100	108,000	13	98,000	12	10,000
地方連合合計	7,883,334	175	8,825,983	181	-942,649	1,159,000	90	1,443,500	107	-284,500
個人団体等	242,536	-	337,015	-	-94,479	-	-	-	-	-
総計	8,125,870	175	9,162,998	181	-1,037,128	1,159,000	90	1,443,500	107	-284,500

◎1月末現在、教会・伝道所の地方連合合計は前年比で神学校献金は-942,649(89.3%)です。
連合会費は、前年比-284,500円。教会数では-17。会費納入人数は-142名です。
尚、期末に当たり、3月31日までに「ゆうちょ銀行」の所定口座に振り込まれたものを計上することとなります。期限の厳守にもご協力いただきたく、あわせてお願い申し上げます。

「献身の証し」

秋山 義也（瑞穂教会 牧師）

私は牧師家庭で育ちました。小さい頃から通っていた教会は、いろいろな人が集まる楽しい場所でした。学校の友人をよく教会に誘い、聖書のお話を聞いたり、賛美をしたり、レクリエーションやキャンプに参加したりと、楽しい思い出がたくさんあります。

7歳の時、イエスを救い主と信じて上尾教会でバプテスマを受けました。それから献金当番や受付、奏楽、教会学校子どもクラス担当など、さまざまな奉仕に携わりました。小学生時代に参加した全国小羊会キャンプや、中学生から参加した北関東連合青少年少女修養会では、同年代の友人や信仰の先輩との出会いが与えられ、信仰が養われていきました。

大学受験の浪人中、信仰の先輩の突然の死という出来事がありました。それまで聖書から聞いてきた「永遠のいのち」について、初めて真剣に問われました。次第に聖書を学び、福音を宣べ伝える働き…「牧師になる」という思いが、自分の内側にざわざわと湧き上がってきました。19歳で召命を受け、西南学院大学神学部神学コース1年次に入学しました。

牧師に至る歩みの中で、出身の上尾教会をはじめ全国諸教会の方々の祈りと励ましが、いつもどんな時にもあったことを思い起こします。大学4年生の時、私は卒業単位の取得ミスにより、卒業式間際に「留年」の通知を受け取りました。「こんな愚かなミスをする者が、果たして牧師になってよいのだろうか」と深く悩み、上尾教会に相談しました。すると「来年度単位を取り直し、卒業できるようにしてください。引き続き献身のために祈っています」という励ましのメッセージが届きました。また、秋山信夫牧師からは「神は民を、葦の海に通じる荒れ野の道に迂回させられた。」（出エジプト記 13:18a）の御言葉が送られてきました。

この原稿の執筆依頼者である壮年会長の高良研一さんは、当時学校法人西南学院の事務局長として働かれていました。ちょうどその年、私は高良さんと同じ古賀教会に通っていました。毎週日曜と水曜に福岡市の神学寮から古賀教会まで車に同乗させていただきました。留年が確定した翌日曜日の朝、留年措置が何とかならないかと心を砕いてくださった高良さんに車中でその事実を告げると、「秋山君、今はこの事の意味が分からなくても、いつか分かる日が来るから」と涙を流しながら励ましてくださいました。私も涙をこらえることができませんでした。古賀教会に到着すると、いつも通りのにこやかな笑顔で金子敬牧師（当時）が迎えてくださり、「秋山神学生、これは神様からのプレゼントだよ」と語ってくださったことも忘れられません。留年後の半年間で必要単位を取得し、無事卒業しました。その後、大学院でも学ぶことが許されました。あの何ものにも代えがたい貴い期間を、今も感謝をもって振り返っています。

私は想像するのです。もし留年して失意の中にあつたあの時、上尾教会をはじめ諸教会の方々から「お前に牧師は無理だ」と四方八方から責められるだけだったとしたら、失敗に向き合うこともできず、とっくにこの道から脱落していた自分がいたのではないかと。愛をもって苦言を呈してくださった方々の言葉もよく覚えています。しかし、失敗に向き合い、牧師としての召命にもう一度新しい息吹をいただいたのは、「あなたの献身の歩みを私の献身として、どんな時でも祈る。祈り続けるよ」という教会の祈りに他なりません。その祈りは牧師になってからも、さまざまな失敗や弱さ、孤独を感じる時に、共に働く教会の方々、また協力伝道において共に働く仲間たちから受け取る励ましとして続いています。

「失敗したら終わり」。社会から受けるその風潮は、昨今ますます強くなっているように感じます。教会はどうでしょうか。私が受けたものをどのようにお返しできているのかわかりませんが、これからも大いに失敗しながら、自分の弱さを誇りながら、主の召しにこえて歩みたいと願っています。

「終わりに、きょうだいたち、私たちのために祈ってください。主の言葉が、あなたがたのところと同じように、速やかに広まり、崇められますように。」（テサロニケの信徒への手紙二 3:1、聖書協会共同訳）



（4月より水戸教会の牧師に就任されます。（編集人より））

「神学校で学ぶ思い」

東京バプテスト神学生 専攻科 氷川 英俊（百合ヶ丘教会）

私は聖書についてもっと学びたい、聖書を原語で読んでみたいという気持ちから 2020 年に東京バプテスト神学校の本科に入学いたしました。コロナの時でしたので、その頃から授業は全てオンラインになっていましたが、仕事を続けながらの学びは決して楽なものではありませんでした。18:30 スタートの授業に間に合わせるようになんとか仕事を終わらせて、会社の会議室や共用スペースなどを借りて授業に参加していました。時には仕事が終わらないこともあり、その場合は後でビデオ受講して、レポートを提出するのですが、これも溜まると大変な量になってくるので、時には夜中過ぎまでビデオを見てレポートを書くという作業に追われたこともあります。このように苦労も多くありましたが、本当に恵みの方が多かった 6 年間でした。自分の教会外の人々に多く出会えたこと、様々な分野で活躍されておられる講師の方々の授業を受けることができたこと、また学びを通して信仰が一段と深まったことなど恵みは数えきれないほどあります。その中でも特に、本科入学時には特に召命感は持っていませんでしたが、学びを通して召命感が与えられて専攻科へと進むことができたことが最大の恵みであったのではないかと考えています。



私の職業は証券会社で営業をやっており、毎日金と欲に囲まれながら働いています。その中で自分もいかに罪深い人間であるかということに長く悩んでいました。本科に入学して学び始め、イエスキリストについて学び、また立派な講師の先生や信仰心の厚いクラスメートたちと共に学んでいると、自分が罪深い人間であるとますます強く感じ始めました。徐々にその思いが強くなり、一時期は自分がこの場にいるのにはふさわしくない人間なのではないかと思い神学校をやめようかと悩んだ時期もありました。しかし、日々主に自分の進むべき道を祈り求めていたところ、ある日イエスキリストから「あなたは確かに罪深い人間です。でもだからこそ私のために働きなさい」という言葉を示され、人生をイエスキリストのために捧げようと決心いたしました。召命感を与えられて専攻科で学び始めましたが、予想以上に仕事と教会生活、神学校の学びを全うするのは簡単ではなく、専攻科の学びが予定より1年のびてしまいましたが、ようやく今年の1月に卒業論文を提出することができました。このような者が皆様のお祈りによって支えられてここまで来られたことを本当に感謝いたします。卒業後もしばらくは仕事を続けながらの奉仕となると思いますが、私のこれまでの学びが少しでも多くの方の信仰のお助けとなることができればと思っております。これまで祈りによって学びを支えてくださった方々や、イエスキリストにまだ出会っておられない方に仕えていければと思っております。全てを主に委ねつつ、主のための道を歩んで行きたいと思っております。

<奨学金委員会報告>

奨学金委員会 委員長 北村 慎二

■ 奨学金申請者及び奨学金受給者との面談

2025年11月1日（土）西南学院において、奨学金委員2名が奨学金申請者6名との面談を行い、申請内容の確認のほか、学生生活や奨学金等について意見交換を行いました。その後、全国壮年会連合3役を交えて、西南学院神学部教授5名との懇談の時を持ち、有意義な意見交換ができました。

■ 第2回奨学金委員会

2025年12月13日（土）オンラインにて2025年度第2回奨学金委員会を開催しました。全国壮年会連合報告、中間監査結果報告、奨学金返還・会計報告、西南学院神学部報告、奨学金申請者及び奨学金受給者面談報告等の各報告の後、2026年度奨学金申請の審査、奨学金返還免除対象者の審査を行いました。また、物価上昇に伴う寮費改定に伴う2種奨学金額の変更（年間36,000円増加）について審議し、承認されたほか、奨学金受給者の近況報告をもとに、奨学金受給者の近況についての確認がなされました。

■ 第3回奨学金委員会

2026年1月24日（土）オンラインにて2025年度第3回奨学金委員会を開催しました。各報告の後、2025年度奨学金給貸与見込額、2026年度奨学金給貸与予定額、2026年度償却予定額、2027年度奨学金申請様式についての確認がなされました。また資金運用や献身者掘り起こしのために奨学金制度としてどのような工夫が考えられるかということについての協議がなされました。

【報告】全国壮年会連合・女性連合 代表者懇談会（第1回）

全国壮年会連合 役員会

2026年1月13日、全国壮年会連合と女性連合の代表者による初めての懇談会がオンラインにて開催されました。本会は、全国壮年会連合が提起した「属性によらない組織のあり方」について、双方の歴史的背景や現状認識を共有し、相互理解を深めることを目的としたものです。

○ 主な共有内容

- 女性連合より：性差別問題への向き合いや、世界の女性・小さくされている人々の声に寄り添う働きの意義を再確認してきた経緯が伝えられました。また、国際的なネットワーク（BWAW等）の一員としての役割を大切にしつつ、「共に決定し、共に担う」世界伝道のあり方を模索している現状が共有されました。
- 壮年会連合より：教会現場で既存の組織形態が維持困難になっている現実を受け、伝道者養成（神学校献金）等の働きを広く継続させるため、属性を問わない参加を模索してきた背景が説明されました。

○ 今後の歩み

- 壮年会連合側からは、女性連合の立場やこれまでの歩みへの配慮が不足していたことへの反省と悔い改めが表明されました。双方は、制度変更などの提案にあたっては事前の対話と相互理解が不可欠であることを確認しました。今回の懇談は、互いの違いを認め合い、連盟全体にとって望ましい歩みを共に模索していくための大切な第一歩となりました。今後も継続して対話の場を持ち、共に学ぶ機会を整えていく予定です

<神学校献金と全国壮年会連合会費納入のお願い>

全国壮年会連合役員会

1月末現在での神学校献金は7,883,334円となり、対前年同期比で942,649円のマイナスとで、目標2500万円に対して、かなり下回っております。今年度から、神学校献金より、東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校へ、連盟に代わり合計350万円を支援しておりますので、どうぞご協力をお願い致します。

また、全国壮年会連合会費は、1月末現在で1,159,000円で、対前年同期比で、284,500円のマイナスとなっております。予算の250万円に対して、かなり下回っております。皆様のご理解とご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

<全国壮年会連合関連の予定>

- 2月14日(土) 第3回全国壮年会連合役員会（オンライン）
- 2月15日(日) エマオ通信No.19発信
- 2月20日(金) 全国壮年会連合ニュース140号発行予定
- 2月21日(土) 新役員顔合わせ（オンライン）
- 2月28日(土) 全国壮年会連合役員会・奨学金委員会合同会（対面）
- 3月14日(土) 10時～12時 全国オンライン研修会（オンライン）朴 思郁 先生
「この時代にバプテストとして生きる」（安定を図る誘惑に抗い、新しく歩み出す信仰の群れ）
- 3月15日(日) エマオ通信No.20発信

全国壮年会連合 会長：高良 研一(恵泉)、副会長：星 文也(赤塚)、事務局長：稲川 仁(宝塚)

書記：木村 均(大井)、会計：高井 透(高崎)

監査：堤 秀幸(福岡西部)、大城戸 一彦(所沢)

同奨学金委員会 委員長：北村 慎二(宝塚)、総務：浦瀬 佑司(札幌)、返還：鶴澤 寛(鳥栖)、

渉外：古田 晴彦(宝塚)、向井田 洋(仙台)

連盟理事：杉山いずみ(徳島)、神学部長：日原広志(有田)

事務局 飯野 實(宮原)

神学校献金・会費 振替 00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局



日本バプテスト連盟全国壮年会連合

〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務：月、水、金 10:00～16:00 ☎・fax:048-886-7533 <http://www.sonen.net> sonen@bapren.jp